

2. 事業の概要と成果	
(1) 上位目標	住民間の意思疎通が促進され、村落開発により住民の生活環境が改善される。
(2) 事業内容	第3期は、建設に少し遅れがあるものの計画通り順調に進んでいる。中間報告書提出までにプロジェクト全体の47%を終了した。本事業の活動概要は以下のとおり。 <u>1. コミュニティセンター3棟の建設</u> ラニパティ、ギドラヒ、チャルバルクルワ、バルクルワ、ハリボラ村の5ヶ村の村民を対象に、ラニパティ、ギドラヒ、チャルバルクルワ村の3ヶ村の政府から寄付された土地に、カーストの階級に関係なく、住民が使用できるセンターを建設、または準備中である。 建築にあたって、The District Magistrate of Madhepura や建設地域を管轄しているバットニー警察署、ベラーリ警察署、区長、村長を訪問し、事業の説明と協力を依頼。また、6月26日から7月9日まで小泉伸容建築専門家が派遣され、建設業者の Mr. Navin Mallick や建設のスーパーバイザーである Sinha Associates と現場、契約内容確認を行った。 2015年4月サイクロンの被害を受けた、スカサン、ロータコミュニティセンター（第1、2期建設）の修復工事を始めた。また、10ヶ村の主要道路を含む活動地域の簡易地図を作成。 <u>2. コミュニティセミナーの開催</u> ●モビリゼーションセミナー Mr. Peter Lasrado により 6月2日から4日まで午前3日間に渡り、5ヶ村を対象に実施した。参加者は3日間合計で207人だった。セミナーでは、事業の目的や内容を説明した。また、コミュニティセンターの必要性や運営、貸し出し方法を、子ども議会(CP)などそれぞれのグループで議論し、発表し合った。 ●コミュニティ開発セミナー 佐藤静代専門家により6月2日から4日まで午後3日間に渡り、5つの村を対象に実施した。参加者は3日間合計で207人だった。セミナーでは、コミュニティの経済、社会、文化について考えた。文字の書けない人も理解できるように寸劇や図式を使って説明した。経済開発では村への入出金について、村人の利益を考えて、入金した資金を村内で保留・循環させること。社会開発では互いに助け合い貧者・弱者への配慮をすること。文化開発では村のシンボル、歴史、生活環境について話し合った。例としてバルクルワ村のシンボルはレンガであることやハリボラ村の HARI は「神様」、BOLA は「話す」を現地語で意味していることなどを発表し合い、意見交換することで住んでいる地域を再認識した。 スタッフトレーニングの実施。以前は、質問に対して同じことを発言するなど自発的に考えることが少なかったが、自分の考えを会議の中で発言できるように変化してきた。

●リーダーシップセミナー：2015 年 11 月に実施予定。

3. 住民の能力・技術開発トレーニング（イ）～（ホ）

（イ）女性自助グループ（SHG）経営研修

Ms. Neel Prabha により 7 月 8 日～11 日まで 4 日間に渡り、2 日間のプログラムを 2 回、5 ケ村の村民を対象に実施した。前半の 2 日間は、チャルバルクルワ、ハリボラ、バルクルワ村の 3 ケ村を対象にし、合計で 142 人参加した。後半の 2 日間では、ラニパティ、ギドラヒ村を対象にし、合計で 138 人参加した。4 日間で合計 280 人参加。研修では、SHG の成り立ちや活用方法、定期的に会議で話す内容などをデモンストレーションやグループワークで実施した。参加者は理解が深まるにつれ、自分の意見に自信を持つようになり発言が増えた。そして、1 本の指は簡単に折れてしまうが、5 本の指が力を出し拳にする、つまりグループを作ることで相乗効果を発揮できることを理解した。

（ロ）女性の収入向上研修

Mr. Abraham Dennyson により 8 月 20 日～22 日まで 3 日間スタッフと 5 ケ村の女性を対象に実施した。20 日は、女性の自助グループの会計をしているスタッフや ICAJ スタッフ合計 8 人を対象に、Sudha ミルクコレクションセンターに行き、現場研修を実施。21、22 日で 5 ケ村を対象に 2 日間の研修を実施した。2 日間合計で 122 日参加。研修では、ビジネスを始めるために、事業のアディアを出し、実行するために必要な市場、利益率、受容などを考えた。そして、経営の知識の必要性や自助グループで共同の野菜栽培を行うことのメリットを理解した。また、利益は、収入面以外に、子どもを学校に送れることや家族に健康な食事を提供できることなどを伝えた。

2 回目の研修は、5 ケ村を対象に 2015 年 11 月に実施予定。

（ハ）持続可能な有機農業と水耕栽培研修

①日本人専門家による農業研修

伊澤正雄農業専門家が 6 月 17 日～7 月 1 日までの合計 15 日間派遣された。研修内容は、農業の理論研修 3 日間（堆肥づくり 2 日、自然農薬作り 1 日）、実践研修 5 日間（8 か所）、ポット栽培・モデル畑作り 1 ケ所（ICAJ オフィス）であった。対象者は 10 ケ村から各 1 人以上の計 15 名。学習したことを実践し、村民に伝えることのできる意識の高い村人 15 人に加え、スタッフ 8 人の合計 23 人であった。研修では、スタッフの学習度を評価。評価は、スタッフ 8 人の理論編と実践編の合算で評価し、上位 2 名を選び表彰した。堆肥が完成するまで 3 ヶ月近くかかる。完成後畑に使用し、作物の発育を調査予定。また、モデル畑を継続的に管理する。

②現地農業専門家による有機農業研修 2015 年 10 月に実施予定。

（二）女性のための縫製技術訓練

2015 年 8 月から 3 ヶ月間の内容で実施予定。

	(ホ) 幼児教育教師を対象とした研修 Dr. Aditya Nath により 7 月 15 日から 18 日まで 3 日間に渡り、10 ヶ村の幼児教育教師 10 名に加え、研修参加を志願した小学生の補講授業を行っている教師 4 名の合計 14 人を対象に実施した。研修では、子どもの特性に合った授業の組み方、幼児の成長段階、指導計画書の作り方、子どものプロフィール作りを行った。また講師は、サルがジャンプしている様子を歌いながら体で表現し、続いて生徒が真似をするなどの遊戯やモデル授業を通した、実践的な研修を行った。加えて、写真付き教師名簿、研修のスライドショーを作成。
(3) 達成された効果	<u>1. コミュニティセンターの建設</u> 【指標】住民会議に利用者数の住民、下位カースト 70%と上位カースト 30%が参加するようになる。また、センターの維持・管理費として女性の自助グループ、幼児教育の両親、農業グループ、トレーニングプログラムや村でのイベント・祝い事の主催者が支払、年間で約 16,200 円が、村落開発委員会の銀行口座に貯蓄される。 【達成度】 ギドラヒ村では、基盤、基礎工事が終了した。チャルバルクルワ村では 8 月末に工事を開始した。ラニパティ村では、土地に関して住民と話し合いを進めている。特に、ラニパティ、チャルバルクルワ村は、政府が提供した土地を住民が勝手に使用するなどの問題があり、村人会議を行い、行政と事業理解を促進するための話し合いを重ねた。 <u>2. コミュニティセミナーの開催</u> ■モビリゼーションセミナー 【指標】第 3 期は 5 ヶ村で 200 人が参加する。参加者の 65% (130 人) が事業を理解し、センターの使用ルールや使用料の支払いが確実に行われ、維持管理費が確保される。センターの管理は村落開発委員会が行う。 【達成度】 5 ヶ村 207 人が参加した。参加者の内、95% (200 人) が事業を理解し、94%の人が実用的な内容だったとセミナー後のアンケートに答えた。また、センターの管理は、HCDI の協力の元で村落開発委員会 (VDC) と女性の自助グループ (SHG) が行うことになった。 ■コミュニティ開発セミナー 【指標】参加者数 200 名の内、上位カーストは 40%、下位カーストは 60%の割合であった。各問題につき、住民たち自らの意見により解決策・行動計画が策定される。 【達成度】 5 ヶ村からの参加者 207 名の内、上位カーストは約 5%約と下位カーストは約 95%であった(セミナー後のアンケート調査より)。セミナーを通して、参加者が暮らす地域のシンボルや名前の由来を考えることで、コミュニティを再認識できた。加えて、セミナー中に、

参加者が下位カーストのカースト名を発言しないなど、参加者の下位・上位カーストの位に関する配慮が出て来た。また、政府が道路や学校、電柱の整備を始める等の相乗効果が出ている。

■リーダーシップセミナー

【指標】研修を受けたリーダーの 65% (40 人の内 25 人) 以上の参加者が地域の実情を理解する。

【達成度】2015 年 11 月実施予定

3. 住民の能力・技術開発トレーニング

(イ) 女性自助グループ (SHG) 経営研修

【指標】本事業第 3 期に新たに 180 人 (2 期目は 120 人) が銀行口座を開設しビジネスをスタートさせる。

【達成度】

各月の会議では集金、貸し付け等お金のやり取りをするだけでなく、家庭・社会問題についても議論し、解決に向けて行動することや政府による助成金として家畜・農具の融資を受けられることを学んだ。

セミナー後のアンケートでは、参加者の 85% が研修内容を理解したと回答した。また参加者の内、上位カーストは 25%、下位カーストは 75% であった。以前までは、参加者の 20% しか自分の名前を書けなかったが、今回は 71% の参加者が名前を書けた。

(ロ) 女性の収入向上研修

【指標】SHG メンバーの年間収入が約 35,000 円から約 55,000 円に向上する。また、10 ヶ村の子どもの小学校入学数 2015 年の 6 月には昨年 の 240 人から 280 へと増加する。

【達成度】

数年前の女性達は、研修で自分の意見を口にすることが無かった。しかし、研修中に参加者による議論ができるようになった。加えて、社会的な地位が変わりつつあり、女性が家庭内で自己決定ができるようになってきた (ビジネスを始めた女性へのインタビューから)。研修後アンケートによる参加者の理解度は 77% で、下位カーストの割合は 95%、上位カーストは 5% であった。

(ハ) 有機農業研修

【指標】現状、年間収入が 1 家族約 35,000 円であるところ、年間収入が約 55,000 円へと増加する。

【達成度】

堆肥づくりを現地スタッフが、理論と実践で村人に指導できるようになった (研修中にスタッフが、村人に理論を教え、その後参加者に農業専門家がインタビュー試験を実施)。研修後のインタビューから参加者の研理解度は 90% であり、参加者の内上位カーストは 18%、下位カーストは 82% であった。

	(二) 女性のための縫製技術訓練 【指標】村から出られない女性が、コミュニティセンターで研修を受講する。そして、3ヶ村で30名が実際に洋服を縫えるようになり、現在の収入0円から月平均約8,000円の収入が得られる。 【達成度】8月から3ヵ月の研修内容で実施予定。 (ホ) 幼児教育教師を対象とした研修 【指標】子どもの小学校入学を希望するという親が、昨年に比べて15%向上する(240人から280人へ増加)。 【達成度】 教師は、子どもの発達段階に沿った、子どもを中心とした教育方法、理論を習得した。また、参加者は子どもの定期的な身体測定や保護者会議の必要性、また授業における教師自身の他者評価や子どものプロフィール作りが必要であることを学んだ。セミナー後のアンケートより参加者14名の内、上位カーストは21%、下位カーストは79%であった。
今後の見通し	今後は、現地駐在員小松洋が建築現場への訪問、SHG ミーティングや幼児教育授業の見学、スタッフミーティングを継続的に行っていくことで、問題点や改善策を話し合い、持続可能な開発になるように活動する。また、子ども議会(CP)や小学生対象の補講授業(TC)などHCDIと現地NGO「JAN VIKAS SAMITI」が一緒に行っている活動にも協力する。 <u>1. コミュニティセンターの建設</u> ギドラヒセンターは2015年11月下旬に建設終了予定。チャルバルクルワ、ラニパティセンターは2016年2月に建設終了予定。 <u>2. コミュニティセミナーの開催</u> ・モビリゼーションセミナー：2015年10月に2回目を開催予定 ・コミュニティ開発セミナー：2016年2月に2回目を開催予定 ・リーダーシップセミナー：2015年11月に開催予定 <u>3. 住民の能力・技術開発トレーニング</u> (ロ) 女性の収入向上研修：11月開催予定 (ハ) 持続可能な有機農業と水耕栽培研修② 2015年10月開催予定 (二) 女性のための縫製技術訓練 8月から3ヵ月間の実施予定 上記の内容を実施しつつ、スタッフの英語やコンピュータトレーニングを実施する予定である。